

第10回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成23年5月19日(木) 午後2時
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎306会議室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員
染野 智司 委員、野路 烝一 委員
小泉 尚子 委員、倉田 繁夫 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員、高市 正高 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長
高橋 とし子 コミュニティ課長補佐
須郷 和彦 コミュニティ係長
- 6 協議事項 (1) 平成23年度の委員会活動について
(2) 地域まちづくり協議会の目標とする姿・イメージについて
(3) その他
- 7 協議状況 開 会 午後 2時00分
閉 会 午後 4時43分

I. 自治会懇談会、補助金申請について（事務局より）

1. 自治会懇談会について

日 時：平成23年5月21日（土）

午前10時より11時30分

場 所：クリーンセンター リサイクルプラザ研修室

内 容：市政報告（市長）

自治会への助成等について

（安心安全課、コミュニティ課）

流山市の災害時における要支援者の対応について

（社会福祉課）

意見交換会

「東日本大震災における自治会の対応について」

*意見交換については、小学校区単位では行わない。

いくつかの自治会（美田・松が丘・宮園）に対応（災害時要支援者避難支援体制）を話してもらって意見交換をする。また、災害とは関係なく、普段からの見守りプロジェクトについて（東初石1丁目）話してもらう予定。

委員から

- ・モデル地区が決定したことは『広報ながれやま』に未掲載であるので、モデル地区が決定し動きだしていることを自治会懇談会で報告してほしい。

※『広報ながれやま』掲載は補助金交付後となる状況である。

2. モデル地区の補助金申請・交付について

- ・4月28日付けで新川まちづくり協議会、流山小学校区まちづくり協議会より補助金申請がなされた。
- ・添付資料の問題箇所等の再提出を依頼し、補助金交付にむけて準備中。内容が整い次第支払いとなる。予定としては今月中を考えているが若干ずれ込む可能性がある。

II. モデル地区の状況報告

1. 流山小学校区について（担当：梅谷委員・河村委員）

- ・ 5月12日 流山福祉会館で役員会開催
(相川委員長・狼委員・河村委員が出席)
- ①規約や補助金の話になり、出席者も総会にするに十分であったため、今回の役員会を総会と位置付けた。
 - 〔 *会則で定められている構成員としては十分であったが、そこに属するすべての自治会長等が出席していたわけではない。本来は設立総会をすべきだという意見もあった。〕
- ②「流山小学校区まちづくり協議会」を正式名称とする。
(略称 NSMK : **N**agareyama **S**hougakkouku **M**atidukuri **K**yougikai)
- ③役員と会則の確認
会則については、前回出した暫定案を議論、修正をした。内容的には、構成員等の捉え方等、十分に詰まっていないため、正式のものとするには時間をかけたほうがよいという意見が出たが、予算申請との関係でこれを正式のものとして、今後必要に応じて改廃していくこととなった。
- ③第3条の構成員について
「根郷町会、宿連合自治会、菜の花協議会、平和台2丁目・3丁目自治会、加台自治会、NPO法人流山史跡ガイドの会等の会員で構成する」という解釈になっている。
推進委員としては、できれば、根郷町会、宿連合自治会は個々の自治会として入ってもらったほうがよいのではないかとすることはアピールした。
- ④事業案においても主体になるのは自治会であろうと主張されている。流山小学校PTAや地区社協については、同じエリアの団体なので会員とするかは要検討である。NPOについては、この地区だけのNPOというものは存在せず、NPOは全市的なものであり、その中心が流山小学校区にあるというのであれば入ってもらうことはやぶさかではないが、NPOが参加した場合は個人が参加したということで、特別会員という扱いをしたほうがよいのではないかと意見が出た。

→全市コミュニティ推進委員会としてはそういう考え方はしていない旨を話した。

- ⑤事業計画・・・アクションプラン12を平和台2・3丁目の宮内氏が中心になって提案している。
(個別事例として説明されたのは下記2例)

i. 東日本大震災復興支援朝市とグルメの会

協議会が提案者になって、市役所、商工会議所の協力で、実際に朝市を開くのは来年4月からであるが、早速動きだしている。市役所、商工会議所以外にもイトーヨーカドーやケーズデンキ等の駐車場を使って、大朝市を行う。計画としては、1万人集めて、支援金を2～3,000万円としている。

(平和台2・3丁目の役員でない人から提案があり運営委員になってやっていただく)

ii. わが町の耐震性と私たちの住む町の防災について考える会

市役所や商工会議所の耐震補強支援センターに持ちかけていく。

- ⑥補助金申請：12のアクションプランのうち、上記2案を含む5つの事業に絞って、50万円の申請をした。

※準備に使うお金ということについてよしとするかどうか。
→準備事業ということはあるかと思えるが、事業として今年度中にできる事業、準備となる事業については意見交換をしながら詰めていく。

※総会について、代議制と考えればよいとする考え方と本来の考え方との整理が必要ではないか。

※ツーリズムの事業と連携ということで、商工課のやっていることではあるが、協議会としてもやりたいということで、商工課や市役所としっかり組んでいかななくてはならない。

→行政と協働する形になるが、よいパターンになれば面白いのではないか。

2. 新川まちづくり協議会について（担当：染野委員・狼委員）

- ・月次報告書（4月分）に記載されている4月7日までは準備段階である。
- ・4月8日に設立総会開催
- ・4月28日補助金申請
- ・5月以降の報告

プロジェクト1・2

5月7日：田植え（プロジェクト1）に54名参加
5月21日：まちづくり通信 No.2 発行
6月11日：野草とり（プロジェクト2）予定

*プロジェクト1・プロジェクト2の狙いというのは、新川まちづくり協議会主催ということで新川地区の目を1点に集めようということが趣旨である。

プロジェクト3（事業2）

- ・プロジェクト3は進行中。事業2として4月の役員会で議論した。（資料「地域の課題・お宝発見」を説明）
- ・子ども会2団体、ママさんグループ1団体、お年寄り1団体にアプローチ中。スポーツ同好会は1団体に検討を依頼。
- ・北部中には狼委員・染野委員でお願いに行く。新川小に係が話をしに行く。

※子どもとママとお年寄りでグループを組んで地域の中を歩いてもらって問題点などをだしてもらい、その問題点を自治会で発表してもらい、それを地域としてまとめて、市長に提案するものは提案していこうということである。

※そのための留意点が「2. 事業を展開する際の留意点」である。その中では参加者へのアプローチ、そして自治会に

提案していく際に自治会によっては利害が絡むので、そのあたりをどう整理して話していくかということが高いハードルとなる。

※子ども・ママ・お年寄りという着眼点はとても良いと推進委員からも感想がでた。

Ⅱ．平成23年度の全市コミュニティ推進委員会の活動について

1．Q & Aの改訂について

- ・本日（5月19日午前中）狼委員、野路委員、染野委員で検討した。
- ・Q & A Project ということのでQAPとした。
- ・基本的な考え方を確認し、今までの整理をして、Q & Aを改訂しリーフレットを作成する。
- ・5月30日までに3人が作って、6月9日15時よりまとめる。6月には提示できる予定。
- ・現状は、去年のシンポジウムや地区説明会で出た意見を整理して、Q & Aになかったかどうか精査している。

2．重点地区の担当について

- ・江戸川台： 染野委員・~~()~~
構想の段階なのでまだ染野委員のみで活動する。
- ・東・向井小金：野路委員・~~()~~
東部地区24自治会にどういう理解をもらっていくか。向小金地区社協会長はかなり積極的な動きがあるが、もう少し野路委員のみで動いていく。
- ・長崎：河村委員・小泉委員
- ・小山：野路委員・~~()~~
前回倉田部長にお願いしたが、行政として

特定の地区に入らず全体を支えたいとのことであった。

野路委員も興味もあるが、この地域についてよく知らないので、資料提供等をコミュニティ課にお願いしたい。

※重点地区とはいっても、まだリサーチの段階のものについては、とりあえず担当1人で地区に入ってもらおう。全般としてはコミュニティ課と一緒にやっていく。ある程度進めていくシナリオが出てきたら担当を増やす。

※重点地区はすべて肩を並べさせる必要はない。

※動きがあった時に報告する。

3. シンポジウムについて

- ・来年度の協議会の募集の仕方・公募の有無について決まらな
いと検討できないのではないか。

- ・シンポジウムでのモデル地区発表するにあたり、モデル地区
が成功事例として発表できるかどうかにもよるのではない
か。

- ・シンポジウムというよりは話し合いの場が必要ではないか。

※12月開催予定だが、上記要素について検討し、モデルの進捗
状況を見て、9月に判断することとする。

4. 地区別説明会について

前回、8月ころ開催との意見もあったが、本日の委員会では説明会を行うか否かの決定もされなかった。状況を見て、判断する。

5. 来年度のまちづくり協議会について

- ・来年度の協議会をどんな形で、どんなスケジュールで決めて
いくかということを検討しなくてはならない。

- ・一般的に協議会ではどんなことができるかということではな

く、江戸川台小なら、小山小であればについて具体的な絵を描いてアプローチしていかななくてはならない。

- ・長崎小であれば地区社協が中心になって立ち上げようという軸が見えてきているが、3つめの協議会が、どんな小学校区でどんな内容になるかということは、地区の特性を理解していかななくてはならない。昨年と同じようではいけないのではないか。
- ・公募か否かによってスケジュールがかなり変動する。
- ・いずれにしても、全市コミュニティ推進委員会で認定する形をとるものとする。(協議会そのものの認定か、補助金を認定か)

※来年度の協議会の設立支援、募集方法、認定方法等については再検討を要する。

6. 梅谷委員からの報告

- ・先方の都合によりヒアリングができていない。
- ・福岡では7～8年前に取り組んだ時には強烈な反対があったが、設立して1年たってその反対もなくなった。モデルが出来てからは反対も無くなるという動きは早かった。
- ・まちづくり協議会の将来像については、「人々が新たな役割に気づき、取り組み、喜びを創る場づくりの場である。」として、協議会という場で取り組む人を広げていく。その人たちの意識を変える、気づいて参加して体験して、それが楽しい自分の役割だということ、そういう人を増やしていける場に協議会がなればよいのではないか。
- ・できるだけたくさんの方がまちづくりに関心を持って参加する形にもっていかななくてはならない。今は視点が協議会の運営をどうするかということになっており、参加する市民の視点で考えることが必要である。

委員から

- ・気づきだけで人は動くのか。
- ・市民生活が向上していくのだということに対する行政の力や市民自治があって、もっとよい生活をするために皆で力を合わせてやっていこうかということであって気づきだけではない。
- ・自治会だけでは行き届かないので、補完して地域でやりましょうということで協議会はスタートしているので、参加だけではない。

※まちづくり協議会の将来像については、次回あらためて検討する。

7. リーダー研修について

- ・今年度も昨年度同様、ファシリテーター育成講座を開催する予定。規模も昨年並み。
- ・モデル地区からも参加してもらい、協議会で活かしてもらうことを考えている。
- ・ファシリテーター育成講座から、「流山ファシリテーションクラブ」が設立された。

委員から

- ・ファシリテーター育成講座も3年目を迎えるので、成果を示さなくてはならないのではないかな。
- ・行政職員や前年度受講者以外の人の参加を増やしていかなくてはならないのではないかな。
- ・「流山ファシリテータークラブ」についても約款等があるならば出してもらいたい。

8. その他

① 委員長より新委員の勉強会の報告

5月13日に新委員（高市委員・小泉委員）の勉強会を行った。両委員が社協なので地区社協の交通整理にポイントをあ

てたものとなった。

高市委員からは勉強会を経て理解が進んだとのこと。小泉委員からは、地区社協を発展的にまちづくり協議会へ成長させたいとのこと。今後河村委員ともども長崎地区は地区社協を中心に進められるとよいのではないか。

② 染野委員より質問・要望等

- ・後期基本計画での10年間で各小学校区にまちづくり協議会を設置する理由について

(倉田市民生活部長)

コミュニティ審議会からの答申を具現化するためであり、自治会については加入率、役員、高齢化等の問題がでてきたため、これらを打破するために、さらには自治基本条例にも謳われているように自分たちのまちは自分たちでということでもちづくり協議会を設置することとなった。

- ・Q & Aにも明快に謳うため、市の施策であること、市が決定したことを推進委員会がお手伝いをすることを確認した。
- ・市が引っ張っていく立場であるならば、その役割の明確さを出してほしい。
- ・委嘱後1年経過するので、市長との懇談の場を設けてほしい。

③ 街づくり条例資料について

資料2の6に「地区街づくり協議会支援」と記載されていることが取り上げられた。

④ 全市コミュニティ推進委員会名簿について

電子メールアドレス入りが配布されたが、次回電話番号を記載したものを再度配布する。

9. 次回の日程と課題

6月16日（木）14時から16時

* 関谷先生からは6月13日（月）ならば都合がつくとのことだったが、3名の委員の都合がつかず当初予定通りとなった。

7月については、Q&A、まちづくり協議会の将来像、役割等について議論も進んでくるので関谷先生の出席をお願いしたい。

→コミュニティ課で確認する。

- (1) モデル地区の報告
- (2) まちづくり協議会の将来像、役割について
(梅谷委員からのレポートあり?)
- (3) 設立支援の考え方についての検討
- (4) 募集方法（公募か否か等）の検討
- (5) 市長との懇談について
- (6) 委員名簿（電話番号・メールアドレス記載）配布

【第10回のまとめ】

1. Q&Aについて

昨年のシンポジウムや地区説明会で出た意見を精査し、Q&Aとのすり合わせを行う。Q&Aを改訂し、リーフレットを作成する。
6月にはQ&Aを提示する予定。

2. 重点地区の担当について

- ・ 江戸川台小（染野委員）、東小・向小金小（野路委員）については、現状のままとし、ある程度方向性が定まったところで担当を増やす。
- ・ 小山小については資料提供等をコミュニティ課に依頼し、研究する。
- ・ 長崎小については前回決定とおり河村委員と小泉委員にお願いする。
- ・ 重点地区については動きがあった時に報告する。

3. シンポジウムについて

来年度の協議会の募集方法等についての検討が必要。モデル地区の進捗状況をみて9月に判断する。

4. 地区別説明会について

説明会開催の可否については、状況をみて判断する。

5. リーダー研修について

ファシリテーター養成講座も3年目となるため、行政職員や前年度受講者以外の参加者を増やし、成果を示すことが必要である。

6. 来年度のまちづくり協議会について

- ・ まちづくり協議会の将来像・役割の検討
- ・ 設立支援、募集方法、認定方法等についての検討

7. 市長との懇談について

コミュニティ課で検討する。

8. 課題等

- (1) モデル地区の報告
- (2) まちづくり協議会の将来像、役割について
(梅谷委員からのレポートあり?)
- (3) 設立支援の考え方についての検討
- (4) 募集方法（公募か否か等）の検討
- (5) 市長との懇談について
- (6) 委員名簿（電話番号・メールアドレス記載）配布

(以 上)